

平成18年度近世史料館夏季展

金沢・能登の名所・風景

平成18年7月4日(火)～9月24日(日)
近世史料館展示室



九十九曲
湾の
風景



金沢名所

浅野川
大橋より
向山を
望む

九十九曲湾の風景 090-345

金沢名所 浅野川大橋より向山を望む

k2-3144



比良暮雪 堅田落雁 唐崎夜雨 三井晩鐘 矢橋帰帆 栗津晴嵐 瀬田夕照 石山秋月

18.9-104

名所とは、景色・旧跡など特有の風物等で有名な場所のことで、風景とは、目に映る広い範囲のながめの事です。

中国の北宋（西暦 1000 年頃）の画家「宋迪」が中国の名勝地「瀟湘」を画題として「八景」を選んだことから、「風景・景勝地の取り扱い方」といった考え方が始まりました。

日本にも瀟湘八景に似た風景があるとして、琵琶湖の景勝地から【瀟湘八景】になぞらえて【近江八景】を選定しました。これは室町時代、石山寺を訪れた関白近衛政家が詠んだ歌に始まるとされています。別に、室町時代の僧たちが選んでいたものを、後陽成天皇（107代、在位期間 1586年～1611年）が決めたとも伝えられています。

【近江八景】を世に広く知らしめたのは、江戸末期の浮世絵師安藤広重の絵によるところが大きいと言われていいます。景勝地を全国的な名所にするには、誰がどの地を選んだかと同時に、どの様に知らせたかと考える必要があるようです。

いにしえの人達は、金沢・能登のどのような所に名所・風景の趣を感じたか、また趣のあるところは郊外に多く、町発展の資料としても、紀行文や絵図・地図等は貴重な資料となっています。

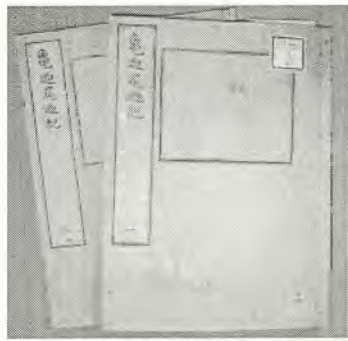
金沢名所展（展示一覧）

k 2 - 9 5	金城勝覧図誌 明治27年
k 2 - 3 0 4	北陸奇勝
k 2 - 8 4 5	兼六公園八景 明治36年
k 2 - 2 5 8 1	金沢市鳥瞰図 昭和7年
k 2 - 3 1 4 4	金沢名所 浅野川大橋より向山を望む
k 3 - 1 0 1	西新地絵図
k 3 - 1 0 2	東新地絵図
1 6 . 6 0 - 1 6 7	鹿島郡須曾村八景之図
1 6 . 8 4 - 4 1	能州所口ヨリ奥郡迄遠景之略絵図
1 6 . 8 4 - 4 1	亀廻尾廻記
1 0 . 0 - 7 3	加陽金府武士町細見図
0 9 0 - 3 4 5	九十九曲湾の風景
0 9 0 - 6 0 0	能登日記 田辺政巳
0 9 0 - 5 8 3	金沢名勝 明治32年
0 9 8 . 0 - 8 3	能登海岸風景絵図 坤巻
0 9 6 . 0 - 3 8 6	能登釜
1 6 . 8 4 - 6 4	能登名跡志
0 9 0 - 3 4 0	加賀金沢細見図 明治20年
2 1 . 9 - 7 8	加能俳人誌
k 9 - 4 7	夷曲歌集百人一首
0 9 6 . 0 - 2 7 6 ①	能登全図（横山絵図）
0 9 0 - 1 5 3	北川金鱗画帳

（注）展示替等により展示されないものもあります。



「加賀金沢細見図」より名所部分の一部 0 9 0 - 3 4 0

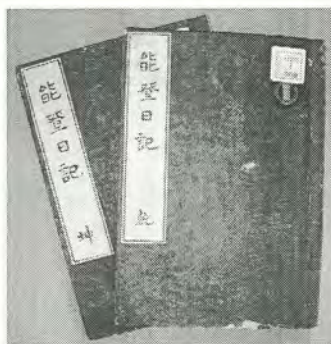


亀の尾の記 (16.84-41)

金沢市内における町名の由来、神社仏閣の来歴から、藩士中の高禄者の系譜家伝を記録して金沢近接の村落の旧跡等も記録している。

この書には、序跋もなく、著者の名も載せていないが、柴野美啓の筆と云われ、弘化4年(1847)5月に没した。

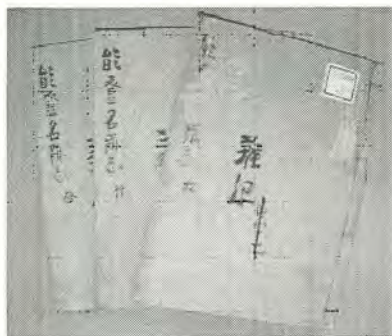
(石川県図書館協会版「亀の尾の記」より)



能登日記 (090-600)

田辺政巳著

文化12年(1815)10月金沢を発し、能登外浦から三崎を巡り内浦を一覧して、同月22日帰宅した紀行文である。



能登名跡志 (16.84-64 ②)

太田道兼著

加賀高松から能登に入り、外浦を経て^{みさき}巳崎に出て、内浦通りを帰る途中の名跡・旧所を記しその地の伝説も載せる。

能登巡・能登路記・能登名勝誌等の表題のものもある。



北川金鱗画帳 (090-153)
(石川門部分)

北川金鱗 明治7年～没年不詳

雅号を金鱗と言ひ、金沢に生まれる。

佐竹永湖に学び南北合派の山水画を得意とした。東洋堂に勤め「会画叢誌」発行に貢献した。昭和11年の金城画壇名簿には特別会員として名を連ねた。